

日刊 勤労千葉

82.5.12

No. 1041

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五六(会館) 電話五七二〇七

反弾圧★ 支部激励交流

5/6 佐倉支部で、支部 間交流集會かちとる

幕張支部と同時に佐倉支部は、去る5月6日、反弾圧総決起集會を南催しました。勤労千葉にかけられた反動攻撃を見すえ、とりわけ佐倉支部にかけられた勤労本部革マル反動分子のタレコミによる権力の不当な弾圧に對し、勤労千葉一三〇〇の最先頭にたつて支部組合員一三〇名(この期間中で新たな仲間が次々と勤労千葉佐倉支部に結集し、更に強固な支部として拡大をかちとつていゝる)の総決起体制をかちとり連日叩いていゝます。

こうした中での支部激励・交流集會がかちとられた意義は、更に大きく深いものがあります。

佐倉支部通信員・発

支部執行部のもと団結し、青年部さう城で叩く佐倉

総決起集會は杵築区講習室をいっばいにする一一〇名が結集し、熱気あふれるふん囲気の中で開始された。集會には津田沼・木更津・銚子・蘇我それに同じく不当弾圧に抗しよう城で叩くっている成田支部から錦織・大須賀両君を含む交流団が参加し共に叩く決意をみせさせた。

集會は能勢副支部長の司會ではじめられ、冒頭、堀口支部長より、激励交流に結集した仲間へのお礼と、支部総決起・団結をもつて最後まで叩くとの決意あふれるあいさつをうけた。

周知のように佐倉支部は、成田と並ぶ三里塚ジミト闘争の拠点であり、81年ストライキ闘争の激戦できたえぬかれた団結力をもつている。あわせてスト破り・裏切りの「本部」革マル反動分子と土屋粹一派との最も鋭い日常的な対決の最先端に位置して、かつ堂々と組織人員を拡大

し勝ち進んでいる。だからこそ「本部」小川連二と権力のデツチあげ弾圧との集中点ともなつていゝるのである。

こういふ時こそ、組合の存在かけて叩おう、
中野書記長が方針提起

続いて、本部を代表して中野書記長より、支部総決起への激励と、情勢・方針についての提起がなされた。

オ一に、今日の情勢が、反動の総力をあげた「ヤミ・カラ」攻撃、そして千葉局でも様々な既得権剥奪の攻撃を開始したこと、しかし他労組中央と勤労「本部」は全面的に屈服し、攻撃の水先案内人にすらなつていゝる。こうした態集せる反動に、勤労千葉は今こそ労働組合運動の存在価値をかけるものとして対決し勝ちぬこうと決意していゝること。

オ二に、「オ二臨調」攻撃は、



「本部」を激しく叩く。5月6日、佐倉支部の総決起集會の様子(佐倉支部通信員)

35万どころか25万、20万としてかけられようとしている。しかもそんなにとんどん人減し合理化をやつても年々一兆円の赤字、既にある16兆円の借金に加えて東北・上越新幹線の建設資金が加重される。この赤字を全部国鉄労働者の責任に転嫁しようといふのだ。自民党・三里塚小委員会への攻撃は、労働組合を潰し、変質させ、軍事大國化・改憲・戦争への道を進めようとするものだ。国鉄労働者の怒りは爆発寸前にある。叩く力を持つていゝる。

オ三に、日本のあらゆる住民闘争、反権力闘争のメッカである三里塚への攻撃が激化していゝるが、国鉄での攻撃と同根である。

(裏へ続く)

青丘部を中心とする城体制がかちと
られている。多くの人たちが激差し入
り、交際訪問がほとんどない。後援者支部組合事務所



「一人一人が活動家になっ
て叩あう」「6.12弾圧に
うち勝った教訓を生かそう」

激励交流に出むいた津田沼・
木更津・銚子・蘇我・成田の5
支部を代表して山下津田沼支部
長が、自らの体験を通じた弾圧
粉砕闘争の教訓をふまえて、

「今日の4支部6名の仲間
に対する不当な弾圧に対し、昨年
の6.12デツキあげ弾圧(軍マル
鳥田誠らのデツキ上げ・告許に
よる警察労働運動化の弾圧)粉
砕の叩いの教訓を生かし切り、
兇賊・非転向と一三〇〇総決起
を實現し勝利しよう。攻撃を逆
手にとって『一人一人が活動家
になつて』叩うことだ。佐倉・
成田・勝浦・葛張への攻撃を一
三〇〇全体への攻撃としてとら
えざり、粉砕しよう。」と激励
と決意の表明を行なった。

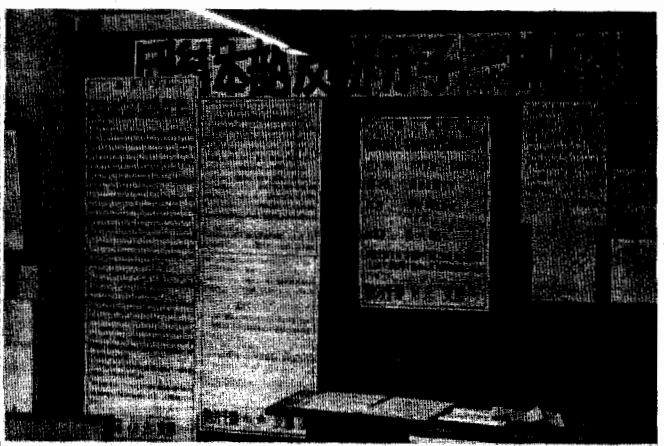
「いつでもこい、佐倉の底
力を見せてやろう。」
|| 宮内執行委員が元気に
決意表明 ||

最後に、この全く不当なデッ
キ上げ弾圧および不当な出頭命
令攻撃と非妥協に叩いぬいてい
る、佐倉支部・宮内執行委員が
たつて、固い決意とお礼をのべ
た。

三里塚闘争が高揚してきては
支配者共は視を高くして寝らぬ
ない。三里塚を潰し、国鉄労働
運動を解体するということに非
常な執念をもちしているのだ。
勤労千葉は、あらゆる攻撃に
抗して、これと正面から対決す
る。右翼労戦「統一」の流れをう
ち破り、労働運動の原点を守っ
て叩っていく道は、この叩いに
勝利する中で開かれる。佐倉拠
点の仲間のがんばりを先頭にし
て、一三〇〇組合員の総決起、
更には全国津々浦々の国鉄の叩
う仲間の総決起をかちとってい
く中で勝利にむか、て前進しよ
う。その叩いの中軸に、宮内君
はじめ、6名の仲間をしっかり
と守り支える叩いをつらぬこう。
勤労千葉としては、来たる6
月5日に、内外に広くよびかけ
て「6.5労働者集会」を開催し、
その力を一歩として総反撃の叩
いに突入する、と鮮明に提起し、
全参加者が圧倒的拍手で確認し
た。

「一九七〇〜七一年のマル生
攻撃のとき、われわれは血みど
ろになつて国鉄当局と叩い、勝
利してきた。今日、『本部』革マ
ル反動分子を先女にして、直接
国家権力が『刑事弾圧』をデッ
キあげ、戦闘的国鉄労働運動を
暴力的に叩きつぶさうというヤ

ニマル生攻撃が開始されている。
三里塚・シエト闘争の拠点、
一三〇〇名勤労千葉の最先頭、
佐倉支部一三〇名の一頁として
の誇りをもって、この攻撃と真
正面から、断固叩います。
「いつでもこい」という決意
はすでに固まっています。トコ
トン叩いぬきましよう。今後も
変らぬ御支援をよろしくお願い
します。」との宮内執行委員の
決意に、葛場の拍手とガンバシ
よ、の声援がとびかい、終始熱
のこもつた激励、交流会を成功
裡に終了した。
全この皆さん、佐倉支部一三
〇名は、固く団結して叩いぬき
逆に「本部」を解体、一掃をかち
とり前進していく決意です。
共に叩いましょう！



警察と手を組んで職場の仲間をデ
ッキあげて来る。卑劣な本部革マル分
子に対して、職場の怒りは沸きあがり、
佐倉の本部は、消滅と動搖を目前
に深めていく。(佐倉村東区東葉集団)